

日本アニメ発祥の地「大泉学園」

東京都練馬区は、1958年に日本初となるカラー長編アニメ映画「白蛇伝」が製作された、日本アニメ産業発祥の地だ。1963年にはテレビアニメ「鉄腕アトム」が製作されるなど、その後も多くの作品が練馬区から生みだされている。現在でも区内には多くの漫画家が在住し、90社を超えるアニメ制作関連会社が集まる日本最大の「アニメのまち」として知られている。

今回紹介する「ねりたんアニメプロジェクト in 大泉」は練馬区、東大泉商栄会（地元商店会）、練馬区観光協会、合同会社練馬アニメーション協議会（アニメ事業者組織）の主催、西武鉄道の協力により実施されたPRイベントで、2008年3月16日（日）、西武池袋線大泉学園駅とその周辺で開催された。

地域に貢献できる事業を模索

鉄道事業者としてこのイベントに関わった経緯と内容について、西武鉄道株式会社鉄道本部計画管理部計画課の富田恭史課長にうかがった。

「西武鉄道の沿線である練馬区と杉並区には全国の中でも多くのアニメスタジオが集まっています。その特徴を生かして何かPRができないかと以前から考えていました」

また、地域の一員として、ともに歩むこ



松本零士さんが1日駅長、「車掌さん」が名誉駅長に就任。



西武鉄道株式会社
鉄道本部
計画管理部 計画課長

富田恭史
Yasushi TOMITA



練馬区
産業地域振興部
商工観光課長

佐々木克己
Katsumi SASAKI

鉄道とまちづくりの連携

第2回

アニメを通じてまちづくりを盛り上げる 「ねりたんアニメプロジェクト in 大泉」

日本民営鉄道協会は、「鉄道」と「まち」が理念を共有し、ともに発展していくことを目的として、2006年に提言「鉄道とまちづくりの連携」を発表、会員各社はさまざまなモデルプロジェクトを進行している。

その事業内容を紹介していく本コーナーの2回目は、西武鉄道株式会社の協力による、アニメを通じてまちづくりを盛り上げる事業「ねりたんアニメプロジェクト in 大泉」を取り上げた。

協力 西武鉄道株式会社 文●永田一周 撮影●飯田典子





商店街の街路灯も「銀河鉄道999」で装飾。

とをうたった西武グループの『グループビジョン』に沿って、地域に貢献できる事業を模索しているときに、練馬区がモデル事業の調査をしていることを知ったという。そこで、富田課長から練馬区の担当者である産業地域振興部商工観光課の佐々木克己課長に「何かできることはありませんか」とアプローチしたところ、タイミングよくこのプランが紹介され、事業に協力することになった。

「打ち合わせでは、練馬区、商店会、アニメ事業者団体、私ども鉄道事業者らが案をたくさん出してブレインストーミングを重ねました。人も費用もお互いが持ち寄り、それぞれの立場でできることを担おう、というコンセプトのもとで腹を割って話し合い、内容を詰めていきました」

こうして「ねりたんアニメプロジェクト in 大泉」の事業がまとまった。「ねりたんアニメ」とは「練馬で誕生したアニメ」という意味で、アニメに関する各種事業の1環としてこのプロジェクトも開催されたものだ。

松本零士さんが1日駅長に就任

イベント当日は、大泉学園駅でオープニング記念式典が開催され、アニメ「銀河鉄道999」に登場するキャラクター「車掌さん」の名誉駅長就任と就任記念オブジェの除幕式が行われたほか、原作者で駅の近くに在住する松本零士さんが1日駅長に就任し、松本さんから区民に記念品としてエコージョーポット（古紙材を再生した花の種入りの鉢）が配られた。

商店街の会場では模擬店が出店され、キャラクターショー、ゲーム、抽選会が行われ、東映アニメーションギャラリーでは展示会が開催された。

西武鉄道では、イベント当日以外にも、3月1日から17日までの間、同プロジェクトをPRするため「銀河鉄道999」オリジナルヘッドマークつき電車を運行。3月12日からは「銀河鉄道999」の記念乗車券を練馬区内の12駅で販売した。この乗車券の台紙には商店街でスタンプを押してもらおう欄がある。商店でスタンプを集めると抽選会に参加できる仕組みになっており、商店街の活性化とも連動した企画になっている。

「車掌さん」のオブジェを駅に設置

イベントが終わった後も、駅とまちが一体となって「アニメのまち」を盛り上げている。「車掌さん」のオブジェは大泉学園駅の構内に設置され、名誉駅長として乗客



大泉学園駅構内の「車掌さん」オブジェ。©松本零士、東映アニメーション

を見守っているほか、駅のあちこちには「銀河鉄道999」の垂れ幕やボードが飾られている。駅から商店街に出ると、街路灯にも「銀河鉄道999」の装飾があり、商店街の意気込みが見て取れる。

これらの原画は居住するまちに愛着心をもつ松本零士さんから「地域振興の役に立つのなら」と、ほとんど無償で提供してもらったものだという。

行政の立場からこの事業を推進した練馬区の佐々木課長は「行政、商店会、アニメ事業者、そして鉄道事業者が協力することで、とてもいい関係を築くことができました。車掌さんのオブジェは区民の皆さまにも評判で、多くのブログにも取り上げられています。また、商店街の方々や住民が自分たちのまちに誇りを持つことにつながったようです」と評価する。

西武鉄道としての意義について富田課長は「鉄道事業者は地域に愛される存在でなくてはなりません。その意味で今回の事業は鉄道が地域に根づくための一役を担えたと思います。また、記念切符の発行で地元商店会の皆さんとタイアップできたこともよかったです」

「車掌さん」のオブジェはスペースの都合で改札内に設置されているが、この場所だと鉄道を利用する人しか接することができない。そこで、改札の外にもまちの人たちにとって何かシンボルとなるようなものを設置して、鉄道を利用しない人にもPRしたいという。

また、大泉学園駅では「銀河鉄道999」がメインになったが、例えば練馬駅なら「白蛇伝」など、それぞれの駅にゆかりのアニメを結びつけたPRも展開している。今後、電車の発車ベル音もアニメの主題歌を使うプランなどが持ち上がっており、アニメを通じて、鉄道とまちづくりの連携はさらに進んでいきそうだ。



© Leiji Matsumoto